



私は卒業後、特別養護老人ホームの生活相談員として介護現場を経験しました。その後、株式会社ツクイ（以下ツクイ）に入社し今年六月二六日、代表取締役社長に就任しました。ツクイは現在、全国で五百を超

える事業所を展開し、在宅介護・有料老人ホーム・人材開発（紹介・育成）の三つの事業を行っている介護の会社です。
思い起こせば、私は最後の原宿校研究科の卒業生になります。当時の先生方や

介護は究極のサービス業

津久井 宏



発行所

〒204-8555

東京都清瀬市竹丘3-1-30

日本社会事業大学
同 窓 会

電 話 042-496-3053

振替口座 00100-9-42448

ホームページ・アドレス

<http://www.harajukukai.jp/>

仲間と過ごした一年間は、現在福祉サービスの実践者である自分の礎を築いてくれました。

● 介護は究極のサービス業

介護保険が始まる前、福祉サービスは市町村からの委託事業（二四時間介護、訪問入浴）でした。

目標はお客から市長宛に「感謝の手紙が届くようなサービス」でした。私達が提供する介護サービスでお客様が満足すると、口コミで次のお客様を呼んで下さる。そして別の市町村からも委託契約を頂き、持続的な成長を続けることができました。

介護サービスを続けてきて、感じることは「介護は究極のサービス業である」ということです。サ

卒業後もずっと社大の一員として日本社会事業大学では、卒業生の方々と充実したネットワークを築いています。本学同窓会は、戦前の社会事業研究生、日本社会事業学校研究科・専修科・専門学校、短期大学、学部卒生、そして大学院の修了生の全員で組織されており、同窓会や大学の歩み、会員の活動などの情報を発信しています。



<http://www.harajukukai.jp>

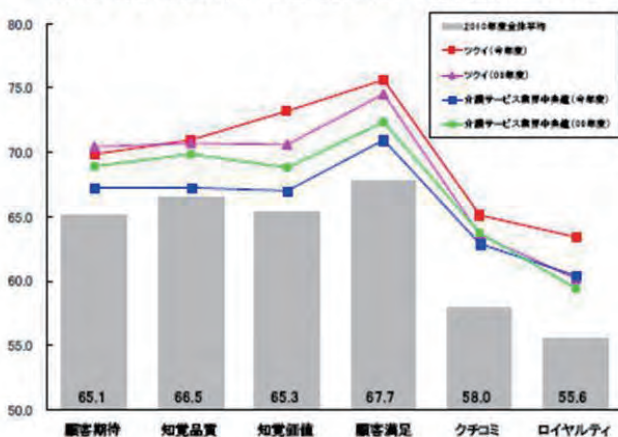
ビス業はどれだけ顧客満足度を高めるか？が大切です。しかし介護サービスを規定通りに提供するだけでは、ご満足いただけません。私達はお客やご家族の声に常に耳を傾け、知識と感性を磨くことが大切なのです。

● JCSI 二年連続第一位

お客様の満足度を示す客観的な指標として、サービス産業生産性協議会が毎年一回調査する、JCSI（日本版顧客満足度指数）にてツクイは介護サービス業界二年連続第一位に評価されました。今後も顧客満足度を高めていくことを目標にサービスを提供していきます。

介護業界に従事して、二三年の月日が経過しま

企業・業界毎の満足度構造の違い【介護サービス】



した。今後は介護について、科学的な視点を持ち分析し、情報を常にオープンにする姿勢で、常に進化し続ける企業を目指していきます。「長生きは美德」だと思えるような社会を目指して。

津久井 宏さん プロフィール

●1965年神奈川県横浜生まれ。

1989年日本社会事業大学研究科卒業。

同年4月に社会福祉法人ひまわり福祉会の特別養護老人ホームで介護現場を経験。その後1989年株式会社ツクイに入社。福祉事業部営業部長、常務、専務、副社長を経験し、2012年6月26日に代表取締役社長に就任。株式会社ツクイは現在全国500カ所以上で介護サービスを展開し、従業員14,000人を超える。2012年3月には東証一部に上場。

同窓会通信 1



加藤 奈央子さん
(学部47期生)

早いもので社大を卒業し五年が経ちました。社会人になってからも有り難いことに社大には何かと赴く機会が多く、母校との繋がりを感じながら過ごしてきた気がします。振り返ってみると、社大で過ごした四年間は私にとってかけがえのない出会いが多く、その出会いや社大での学びがなかったら今の私が無かったといっても過言ではありません。

在学中は、一年次の後期の授業で出会った寺谷隆子先生に憧れて精神保健福祉士課程を希望し、寺谷先生のゼミに所属していました。寺谷先生からは、それぞれが持つ人生の物語を教えて頂きその経験を強みとして共に人生の伴走者として歩んでいくという、パートナーシップやストレングスを基盤とした支援について学びました。それらは現在私が精神保健福祉士として大切に行っていることでもありますし、これからも変わらないことであると思っています。

卒業後は、一般企業の人事部門で新卒や障がいを持つ方、外国人の方の採用・研修業務を経験し、現在は縁あって千葉県市川市にあるクラブハウスモデルを取り入れている地域活動支援センター、「クラブハウス For Us」という事業所で昨年十月より働いています。クラブハウスの特徴は

【プロフィール】

- 秋田県出身／千葉県育ち
- 在学中は、学生自治会・HANDS・フットサル同好会 ZenZenに所属
- 趣味／散歩・読書・音楽鑑賞・猫との生活
- 今年の秋には、韓国で行われるアジアクラブハウス会議に参加予定です。(初海外!)

まずメンバー(利用者)とスタッフ(職員)との関係が対等で共に運営していくということ。私も日々 For Us の仲間と喜びや悩みを共有しながら、笑いあり涙あり(！)の生活を送っています。最近はず前中ランチを作るキッチンユニットに参加することが多く、料理の腕も日に日に上がっている気がします！(野菜を切るのが早くなったくらいですが！)

For Usではスタッフ

やメンバー問わず同じ経験をして、時には失敗もしながら前進している私にとっても大切な場所です。これからも寺谷先生はじめ社大での経験や学びを胸に頑張りたいと思います。

同窓会通信 2



高橋 亜美さん(旧姓：堀場)
(学部38期生)

私が勤めるアフターケア相談所ゆずりはでは、児童養護施設や養育家庭等を就労・就学で自立退所した方たちの相談支援を行っています。社会的養護施設の多くの退所者は虐待のトラウマを抱え、親や家族を頼れず、低学歴、という幾重にも重なるハンディを背負わされる私に出ます。彼らは、失敗したり立ち止まった

りする機会を持たされず生き続けなければなりません。施設退所後、自殺に追い込まれたり、ホームレスになったり、犯罪にまきこまれたり、性産業に身を置く等の状況になる人は少なくありません。私は親や家族のみが後ろ盾になるような社会の仕

組みではなく、どの家庭に生まれ育っても、その人の一生を社会が見守ってくれるような社会となっていきたいと思っています。かつて社事大学生時代、私は前代未聞の落ちこぼれ学生でした。大学にも多大な迷惑をかけたこともあり、その当時お世話になった先生や仲間たちも、私が児童福祉の仕事に従事していることに驚いていらつしやと思っています。でも社大に行っていなかったら私がこの仕事に就く事はありませんでした。そして、本当に過酷な虐待環境を生き抜いてきた子どもたちとの出会いと彼女・彼らの必死に生きる姿こそが私

がこの仕事を続ける原動力となってきました。社会的養護をとりまくシステムや社会からの理解はまだまだ十分ではありません。「子どもは社会の大切な宝物」という原点に戻って、「社会の子ども」という視点を皆さんともう一度共有出来たら嬉しいです。

【アフターケア相談所ゆずりは】

東京都小金井市中町3-10-10-102

電話 042-315-6738

E-mail: acyuzuriha@gmail.com <http://info.asunaro-yuzuriha.jp/>

【プロフィール】

1997年度社会福祉学部児童福祉学科卒業

2002年より社会福祉法人子供の家が運営する自立援助ホームあすなろ荘で援助スタッフとして勤務。

2011年同法人が開設したアフターケア相談所ゆずりはの所長に就任。

「子どもの貧困白書」「日向ぼっこと社会的養護」ほか一部執筆。

佐賀県支部

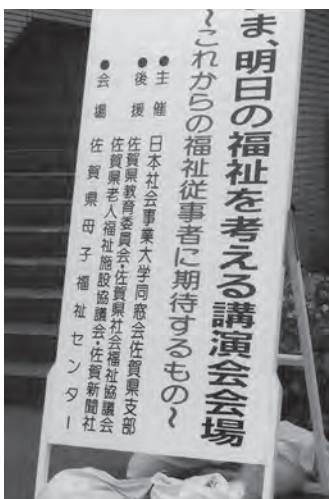


9月14日

『いま、明日の福祉を考える講演会』開催

同窓会佐賀県支部の“いま、明日の福祉を考える講演会”が佐賀県母子福祉センターで行われ、福祉を学ぶ高校生ら300人が参加しました。

佐賀県支部長 藤崎信一



開催日時・会場

平成24年9月14日(金)

佐賀県母子福祉センター



開催の主旨

今、福祉をめぐる環境、とりわけ超高齢社会を迎えて、在宅介護・施設介護をめぐる、「その支え手たる福祉従事者、福祉の在り方」が問われているのではないのでしょうか。

そんな思いから「これからの福祉を志し、学び、支える人たちに求められるもの」をテーマに考えたいと思います。



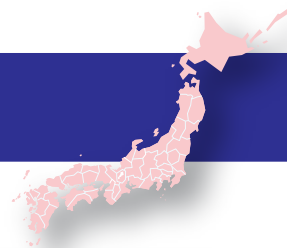
佐賀新聞

シンポジウム

潮谷義子氏 (前熊本県知事)

西山はるの氏 (ケアハウス大地施設長)

大橋謙策氏 (前日本社会事業大学学長)

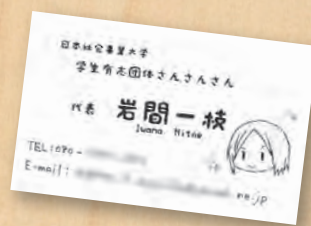


さんさんさんって？

私達さんさんさんは日本社会事業大学の学生が中心となっている学生有志団体です。町の様々な行事（市民まつり、商店街の夏祭り、町の会議など）への参加を通じ、清瀬に住む、または清瀬に関わる人々と、清瀬を「いいところだな～」と思える町にしたいと思っています。さんさんさんは、これを「まちづくり」と呼んでいます。行事に参加するだけでなく、さんさんさんが主体となって作成している『ミニコミ誌』という地域情報誌も発行しています。



◀ kore ミニコミ誌です



▲ 代表・岩間の名刺デス



一年生の印象

昨年までは1学年5名前後の少人数で活動してきましたが、今年は1年生・編入生合わせて22名が入部してくれました。

1年生から見たさんさんさんのイメージとは何か。

『活動のコンセプトである「まちづくり」や団体名さんさんさん（太陽）から想像できる、「あたたかい」「明るく元気」などのイメージが多く挙げられました。他にこれまで参加した活動を通して、色々な年代層と関わりが持てるため、自分の成長にも繋がる場』という意見も出ました。



市民まつり

1年生が企画段階から携わる初めての行事が10月に開催される市民まつりです。人々が楽しんでいただけるよう、独自の企画を進めています。今年は2つの催し物を用意しています。どんなものかは、当日のお楽しみです。



これからのさんさんさんについて

今後の活動について、代表の岩間（3年）は『私達が通う日本社会事業大学がある「清瀬」というまちでこのような活動を行えることを誇りに思います。まちの各団体さんのイベントにも参加させていただくなど、さんさんさんの活動の幅も有り難いことに広がってきました。私の中の今後の課題として、皆が自分の意見を出し、自分達がやりたいことを積極的にやっていける団体を目指して頑張っていきたいと思っています。』

副代表の戸谷（2年）は、『学生である、自分達が暮らし、日々利用する「清瀬」というまちに動きかけを行っていくことはとても大きな意味を持っていると思います。今後も、様々な年代の人にまちについてを、少しでも考えてもらえるようなきっかけづくりを提案し続けていきたいです。』

これからもさんさんさんは「清瀬」で活動を続けていきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。

タウン誌に紹介されました～
(多摩ら・び No.72)



さんさんさんメンバーの集合写真。

これで全員ではありませんが・・・

前列右から3番目（真ん中）の黄色のポロシャツを着たのが代表の岩間です



アメブロにも遊びに来てください/
「さんさんさんとゆかいな仲間たち」
<http://ameblo.jp/machidukuri333/>

岩手県支部

日本社会事業大学岩手県支部同窓会開催報告 — 大橋謙策先生を囲んで —

去る平成24年8月9日(木)盛岡市内において岩手県支部同窓会を開催しました。3.11の東日本大震災以来、初めての開催であり、総勢14名で大橋謙策先生を囲みながら和やかなひと時を過ごしました。また、東日本大震災に係り、大学、全国の同窓生の皆様からたくさんのご支援をいただき岩手県支部会員一同感謝の気持ちでいっぱいです。あらためて御礼申し上げます。同窓会本部からいただきました温かい志は、震災で大きな被害を受けた宮古市の赤前保育園(園長 小関憲一)にお見舞金としてお届けしましたことをご報告します。

岩手県支部(支部長 高橋勝彦)は、会員50名ほどで構成されています。年1回は、会員同士が顔をあわせる機会を持ち、交流が深められるよう会を運営して参ります。

岩手県支部支部長 高橋勝彦



(写真前列左から)小原奈恵、
植木英裕、千葉清夫、川尻多
恵子、高橋勝彦支部長、内藤
信一
(写真2列目左から)星拓史、
中村千鶴子、長田くみ子、大橋
先生、熊谷彦人、森本正子、土
屋ひろみ
(写真3列目)右京昌久※立っ
て手を広げている男性

京都府支部

久しぶりの同窓会でした!!

初夏の陽光の中、5月19日(土)京都タワーホテルにおいて、日社大京都支部の同窓会が開催されました。

7名が集まりました。宮津から来られた元MSWで、今も地元の福祉に関わっておられ、しかも85歳になられた小西慶子様を初め、最も若いところでは、つい4年前卒業されたばかりの、京都市内の大学院で哲学を学ぶ対馬果莉様、それから今なお青年そのものの大学同窓会の伊藤博胤様たちでした。

間支部長のあいさつに続き、先ほどの所在確認・意向調査の報告、自己紹介と和やかに進みました。伊藤様からは、各地の同窓会開催状況等、貴重な報告がありました。これから先のこともみんなで話し合いました。

まず、支部長が40年ぶりに交代となり、須山になりました。事務局長松本恵美子、研究委員坂口扶仁子の体制です。どうかよろしく願いいたします。

今後の方向として、

- 2年に1回程度の集まりを基本に。
 - 時には大学から教員等の派遣を受けての集まり。近隣府県との合同開催もあり。
 - 時には、京都での学会開催等に合わせたの拡大同窓会の開催もあり。
- などと落ち着きました。

京都府支部長 須山真行



東京都支部

公開研修会

「社会的養護のさらなる充実を求めて」

7月14日に中野サンプラザ研修室にて、上記のような研修会を開催しました。近年児童虐待の問題は関係者の懸命な努力にも関わらず拡大する一方で、被虐待児童の養育の受け皿としての社会的養護のあり方が問われています。そうした中で、今年4月から社会的養護関係5施設には第三者評価が義務付けられ、同時に保育所保育指針に当たる各施設の運営指針も策定されました。こうした動向の中で、その流れを確実なものにしていくため、現場のトップの方々から現状と課題についてご報告を頂き、さらに理解を深めたく企画しました。



東京は様々な研究機関や大学が集中しており、一同窓会支部だけの企画では参加者の集客力や費用の負担面からも無理のあるため、東京都の第三者評価機関との合同企画とさせていただきました。都内には膨大な数の卒業生が存在すると思われませんが、同窓会の当支部だけではこうした把握は、困難で活動も難しいものです。過日同窓会の責任ある立場の方(都内居住の方)からも、活動がないと叱責されました。多くの社大卒業生自らの活動への参加を呼びかけつつ、今後も他組織との共催やインターネットを活用した活動など工夫しつつ展開したいと思っています。

研修会は、児童養護施設職員、第三者評価機関関係者、本校卒業生等20余名の参加があり、二葉学園統括園長(法人常務理事)武藤素明氏、誠明学園園長豊岡敬(本校卒業生)氏、横浜いずみ学園園長高田治氏とそれぞれ専門分野の第一人者である講師の方々との熱い議論が展開されました。

東京都支部長 本山美八郎

滋賀県支部

7月15日(日)

第4回目の滋賀県支部会合・懇親会を開催

参加人員は9名で、かつて福祉先進県と言われた滋賀県の精神風土をあらためて考える試みとして、長浜を中心とした湖北地域の歴史・文化を探訪した。今後は小さな支部だが幅広い年齢層に対応した独自の活動を模索し続けていきたい。



滋賀県支部事務局 西村彰一郎

ロンドン パラリンピック 支援金贈呈式 (8月9日同窓会)

小山恭輔選手(水泳)
秋元妙美選手(ボッチャ)



幹 事 会 報 告

学内学会初日の6月23日(土)開催。11年度の事業・決算報告、12年度の事業計画・予算が承認された。この主要点を報告したい。

◆ 東日本大震災にかかる支部支援を岩手・宮城・福島・茨城の各支部にそれぞれ20万円。母校在学の被災学生9名に各10万円の見舞金を給付。(母校の被災学生調査を参考とした)支部活動支援に91万円(青森・佐賀・熊本)拡大総務委員会に出席の地方支部(北海道・長野・京都・熊本)に交通費10万5千円。以上4件を「五味基金」から支出。

◆ 支部活動の拡充にむけ協議をする拡大総務委員会を、首都圏5支部と地方4支部の2回をもった。会報は2回発行し、それぞれ住所判明者7800人に直送。各支部に2万円(支部会開催支部は3万円)を支援。支部会・同期会には、可能な限り同窓会役員・母校教職員を派遣。全卒業者へ同窓会名入りの証書ホルダー贈呈。

◆ 新年度にあたっては、これまでの主要事業を継続するとともに、支部活動・同期会等の活動基盤とする会員データの把握・継続管理、名簿作成や会費納入管理、ホームページの活用などをどうすすめていくか、会員数の多い首都圏支部や会員数の

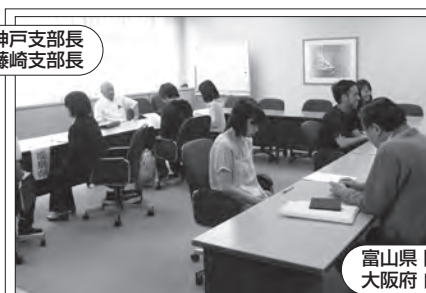
少ない、また、若年会員が途切れがちな支部等の課題など、総務委員会・拡大総務委員会を中心に検討をすすめていく。

◆ 終身会費制発足に伴う会費の「増収」は、会活動の基礎となる会員データの拡充・管理について考えたい。

(決算・予算は別図参照)

同窓会の就職相談会(6月23日)

福島県 神戸支部長
佐賀県 藤崎支部長



富山県 関本支部長
大阪府 白江支部長

総務委員会の活動報告

総務委員会では、同窓会活動の活性化に向けて、今年度は①支部活動への支援強化と②情報発信・情報交換の拡充に取り組んでいます。

①支部活動への支援強化

社大の同窓生は全国各地で活躍されていますが、最近は卒業生が首都圏にかなり集中するようになってきました。このため、首都圏以外の支部で、活動が先細りしないように支援し、社大の全国ネットワークを維持していきたいと考えています。

そこで、来年度から地方支部のブロック単位で本部と共催の大会を順次開催することにより、地方にお住まいの同窓生が一堂に会し、同窓生がつながりをつくるきっかけにしようということで準備を進めています。

同窓会に多大な貢献をいただくとともに、御遺産を同窓会に寄付していただいた故・五味百合子先生のご遺志も踏まえながら、清瀬世代の卒業生にも参加しやすいものにしていきたいと考えていますので、開催する場所や大会の内容など、ご希望やご要望がありましたら、お気軽に校友室までご連絡ください。

②情報発信・情報交換の拡充

最近の情報を取り巻く環境は著しく進化しており、同窓会としてもE-Mailなどに対応した情報発信・情報交換などが可能となる環境を作る必要があると考えています。このため、会員名簿のデータベースとホームページによる維持管理を一体化して、名簿情報を有効に活用していけるように検討を進めています。

合わせて、前回の名簿作成から10年以上が経過し、名簿情報の精度がかなり落ちていきますので、順次情報の更新をしていきたいと考えています。今後、名簿情報の確認・修正の依頼が届きましたら、ご協力いただきますようお願いいたします。

同窓会副会長・総務委員長 竹田幹雄

2011年度 日本社会事業大学同窓会収支計算書 2012年度 日本社会事業大学同窓会予算

収入の部		(単位: 円)
科 目	2011年度決算額	2012年度予算額
前年度繰越金	1,540,788	3,174,798
会費収入	6,674,000	4,800,000
入会金収入	858,000	846,000
利息収入	390	500
雑収入	6,013	1,000
合 計	9,079,191	8,822,298

支出の部		(単位: 円)
科 目	2011年度決算額	2012年度予算額
会議費	127,886	200,000
委員会活動費	135,667	200,000
人件費	569,260	600,000
支部強化費	1,251,160	1,500,000
研究推進事業費	110,280	0
機関誌等印刷費	1,029,961	1,100,000
支部出張費等	408,780	450,000
通信運搬費	1,365,611	1,600,000
学内学会助成金	100,000	100,000
システム管理費	126,000	150,000
ホームページ関係諸費	92,080	150,000
慶弔費	50,400	100,000
国際交流推進費	19,800	80,000
卒業記念品費	285,440	300,000
事務局活動費	232,068	300,000
基金合計繰出金	-	1,700,000
予備費	0	292,298
合 計	5,904,393	8,822,298

【収支差引額】

9,079,191 - 5,904,393 = 3,174,798
(収入決算額) (支出決算額) (翌年度繰越額)

◆ 2011年度同窓会運営基金(元会館建設基金) 現在高 24,151,411円
◆ 五味基金 22,400,000円

同窓会通信

同窓生の皆様、お元気でしょうか。
今回もホットな母校・同窓会の出来事をお伝えしていきます。



理事長就任のあいさつ

潮谷 義子(学部2期卒)

去る5月1日、法人理事会、評議員会選出により新理事長に就任いたしました。鷺尾前理事長には、本学発展のために御尽力下さいましたが、志半ばにして急逝されました。ここに改めて感謝と哀悼の意を献げます。

本学の歴史は、幾多の理事長をはじめ教職員、同窓生の叡知とエネルギーによって発展、維持されてまいりました。このような諸先輩に比し私は誠に微力です。しかし、自らが学んだ大学への誇りと愛着、激しく変動し厳しさを増す社会環境の中の福祉単科大学としての使命、厚生労働省委託の意味を問いつつ理事長として役割を担ってまいりたいと考えています。福祉教育は時代や社

会の要請に応え諸々の課題に取り組める知性と感性と実践力、高い専門性と広い人間性の培いが求められています。尊厳のある人々の「いのち、健康、暮らし」を守り、自らの生き方を含んで人権、平等、自己実現できる福祉人材の育成をめざす大学として存在しなければならないと考えています。福祉教育は国の根幹に関わるものであるという再認識を深め、今後とも多くの方々の本大学にお寄せ下さる御協力とエールを源に本学発展のために、心を尽くし思いをこめて理事長の役割を担ってまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

故・高橋重宏先生を偲ぶ会

5月13日、全社協灘尾ホールで「故・高橋重宏先生を偲ぶ会」が開かれ、367人が参列しました。会は、日本社会事業大学、日本社会福祉教育学校連盟、日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会などが実行委員会を設けて主催しました。

阿部實学長代行の「お別れの言葉」をはじめ、各方面の同僚や教え子の思い出話を通じて先生の活躍と人柄・思いが紹介されました。参加者は、日本社会にソーシャルワークを根付かせ、子どもの権利が守られる社会にしたいという先生の遺志を、少しでも継いでゆこうと誓ったのではないのでしょうか。



高橋 重宏先生を偲ぶ会



会場に展示された写真 ▲

予想を超える参加者によって生まれた若干の黒字額は、先生が応援してきた日赤の国際活動のために使ってもらおうと、後日同社に寄付させて頂きました。

「偲ぶ会」実行委員長 佐藤久夫



スナップ集

社大福祉フォーラム2012



地域生活応援隊 ▲
(学生研究奨励賞)



▲ 武田睦美氏 / 吉田勇次郎氏
(木田賞)



コーディネーター：潮谷義子理事長 ▲



▲ 卒業後50年・実践と研究報告
(報告者：石橋須美江氏ほか)

佐藤久夫先生最終講義・懇親会のお知らせ

●日時／2013年3月9日(土)午後1時30分～7時30分

●場所／日本社会事業大学清瀬キャンパス

プログラム—— ◆12:30～ 受付開始 ◆13:30～ 開会のあいさつ
◆13:45～ 最終講義「日本の障害者福祉(仮)」佐藤久夫先生
◆15:00～ 休憩 ◆15:15～ シンポジウム「今後の障害者福祉の展望(仮)」OBOG代表 ◆16:45～ シンポジウムの総評 佐藤久夫先生
◆17:00～ 閉会のあいさつ ◆17:30～ 懇親会

問い合わせ先 佐藤久夫先生最終講義実行委員会代表 高田明子
Tel : 090-996-2124 / 042-496-3074 Email : takata@sf6.so-net.ne.jp

千葉専門ゼミ発足25周年/ 千葉教授定年退職記念 福祉フォーラム

—高齢者へのレクリエーションサービス&グループワークから
ソーシャルウェルビーイングへの接近を議論する—

●主催／千葉専門ゼミOBOG会本事業実行委員会 ●日時／
2013年3月9日(土)午後1時～7時30分 ●場所／日本社会事業大
学清瀬キャンパス ●司会者／上野愛実、坂本三奈(現役4年生)

●実行委員長／浦山 大(2010年度卒)

問い合わせ先 千葉研究室パソコン Email : chiba@jcs.ac.jp

ルポルタージュ

「IT関連への社会参加めざして」

武田 睦美(旧姓 田川/学部二七期)

精神障害者の働く場に関わっていますが、何故、パソコン事業にしたのでしょうか。

精神障害者が直接作り、直に売ることでお客様の精神障害に対するイメージが変わりました。

大学卒業後、東京都町田市にある精神障害者小規模作業所に就職しました。昭和六二年、精神衛生法から精神保健法に改正。精神障害者に対し、「危険、恐い」イメージが強く、働く場所を確保することも難しい時代でした。

無添加、安全食材を使った自主製品の製造、販売と調理する喫茶店を開店しました。安心安全な商品



小松源助ゼミの仲間と(最前列)

れるようになりました。精神障害者家族会も県や市町村に作業所開設等陳情に活発になり、作業所が増えていきました。

高知市には内職、菓子製造をしている作業所があり、三か所目となるサポートびあを平成八年に開設します。軽度のできる事務作業を仕事に決めて、求められる技能であるパソコン事業を選択しました。

地元の新聞社に協力をお願いし、利用者とボランティアの募集の記事を載せていただきました。「精神障害者にもパソコンを」というタイトルです。掲載後、問い合わせが殺到。ボランティアの応募が二〇件、当事者(障害者)と家族から一〇件。「通常記事に対する反響は四、五件が普通なので大反響ですね」と新聞記者さんから言われます。「企業就労を目指して資格を取りたい」「病気になる、学校に行けず、勉強できなかったのだから取り戻したい」という声が集まり、実現させたく始めました。

就労支援事業にどのような思いがありますか

主な仕事は会議録、講演のテープ起し、データ等入力

作業、名刺やチラシなどの版下作成印刷です。人に向かうのではなくパソコンと二対一の作業で集団行動が比較的少なく、ストレスも少なく仕事ができます。

就労に活かせる学習機会を設け、パソコン教室、日商簿記教室を行い、資格を取得できるよう支援しています。現在、パソコンの資格取得者が九名、日商簿記三級取得者は一名います。

資格取得した知識を活かしてパソコン教室を開催しています。「精神障害者が出前講師」というタイトルで、新聞社も取り上げてくださり、堂々と教えている様子の写真が掲載されました。

お客様はパソコンを覚えることを楽しみ、説明する障害者に対し講師として敬意、笑顔で喜んでくれました。それが自信につながり、数名ですが就職しています。

小規模社会福祉法人、NPO法人に、県内外の作業所は法人格を取得します。複式簿記会計に変えなければならず、少人数職員体制で運営している作業所にとりて大きな問題でした。助け合おうと簿記教室を始めたことがきっかけになり、会計ソフト販売、事務代行の仕事をするようになりました。

簿記資格取得によって、自信をつけた人、試験は落ちたけれど、学習し、「事務代行経験があると履歴書に載せて就職できた」と報告してくれると私も嬉しくなります。

学生時代の思い出は?

ほとんど勉強せずに遊んでいたように思います。卒論も稚拙な文章で、小松源助先生に呆れられていたと思います。優しくご指導いただき卒業させてくださいました。このことに感謝申し上げます。

三年生の年に精神科病院に実習させていただきました。患者さんに優しく接してもらい、各々の人生を教えてくださいました。それが今の仕事をするきっかけになったと思います。

今後の抱負は?

開設当初は私一人から始まり、現在、常勤職員五名、



プロフィール たけだ むつみ 1963年北海道生まれ。日本社会事業大学卒業後、東京都町田市の富士作業所指導員として、天然酵母パンの製造や喫茶店経営を指導し、精神科病院やグループホーム等で経験後、高知市に精神障害者作業所サポートびあを開設。利用者にある事務作業希望のニーズの存在、精神障害特性とのマッチング、IT産業の将来性などから、自身は苦手なパソコンを用いた作業に挑戦を始め、社会福祉法人あけぼの会を設立、理事兼施設長。他の障害者事業所とのネットワークづくりやコミュニティワークにも取り組む。

非常勤職員二名です。パソコン好きな職員が集まり、仕事内容も多様になりました。二三年度、パソコン教室の利用実績は、年間五四六回延べ客数千三百六十八人になります。毎年、利用客数を増やせたら嬉しいです。WEB作成が好きな利用者が集まってきました。新たなWEB作成の技能を高めて、お客様と障害者がお互いに喜び、笑顔になる仕事を増やしていきたいと思っています。